

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

## 2014年度 プロジェクト・サポータープログラムによる活動報告書

■募金件数: 15,353件 ■募金額: 32,106,000円 ■募金期間: 2013年10月1日～2014年9月30日

プロジェクト・サポーターの皆さまからいただきましたご協力により、インドや東ティモールなどで、児童労働の危機にある子どもたちや、水不足に苦しむ子どもたちなどへの支援を行うことができました。感謝とともに、ご報告いたします。



ワールド・ビジョン・ジャパン (以下、WVJ) の支援により、看護師と助産師の資格を取るための学校で学ぶパナジャさん (18歳)。パナジャさんはまた、WVJの支援で作られた青年期の少女たちの集まりにも加わり、女子であるために直面する問題を互いに話し合い、その解決のために助け合っています。

### インド

## インドの児童労働の危機に さらされている子どもたちのために

### 支援地域の状況

ワールド・ビジョン・ジャパン (以下、WVJ) は2011年より、インド南部のタミル・ナドゥ州ヴェレロ郡にあるグディヤットンという町で、厳しい貧困にある子どもたちが、児童労働の犠牲とならないように支援を行っています。

2011年にワールド・ビジョン (以下WV) が実施した調査によると、人口の約5%に当たる824人 (男子457人、女子367人) の子どもたちが学校に通うことができず、教育を受ける機会を奪われたまま、労働を強いられる危険にさらされていました。子どもが児童労働を強いられる要因の一つは、教育費を払えないほどの家庭の貧困にあります。そのような家庭の子どもたちの多くが家計を助けるために、厳しい労働に就かざるを得ません。児童労働の削減のためには、慢性的な貧困を改善する必要があります。

またグディヤットンでは、保護者の教育への無理解から学校に通うことができない子どもも少なくありませんでした。さらに、教育を受けられなかった青少年たちが、就職に必要な知識や技術を得る機会もありませんでした。

このような背景から、教育、職業訓練、生計向上、法的整備といった総合的な支援が求められていました。

## 1. 貧困状況の厳しい家庭への通学支援、「子どもクラブ」の活動

厳しい貧困などの理由で学校に通うことができない子どもたちが継続して教育を受けるためには、学校や教師、保護者たちと協力しながら、継続的な登校が可能になるように環境を整えることが必要です。

WVは、夫（父親）を亡くし女性だけで家計を支えている家庭や、障がい者やHIV/エイズの影響を受けている人がいる家庭、また日雇いの労働で複数の子どもを養っている家庭など、経済状況がとくに厳しい家庭の子どもたち51人の授業料の一部を支援しました。さらに、100人の子どもたちが高等教育を受け、就職につながる専門技術を学べるよう財政的な支援を行いました。

また、子どもたちが、自分たちの直面する問題や地域の課題について話し合うことを通じて、人権や環境について学ぶ42の「子どもクラブ」を設立しました。

さらに、学校が抱える様々な課題を解決すべく、各学校の校長や教師、保護者や子どもの代表などで構成されるPTAと定期的に会議を行いました。これを受けて、出席状況がよくない子どもを、「子どもクラブ」のメンバーが家に寄って学校に誘うなど、出席率や成績の向上などに取り組みました。

また、10年生（中等学校）の子どもたち210人を対象に、進路指導の説明会を行い、22人（男子15人、女子7人）が仕事に必要な技術を身につけるための自動車の運転とコンピューターのトレーニングを受けました。

## 2. 青年への職業訓練

すでに児童労働を強いられている子どもたちや、学校に通っていない青年たちに対し、地元の大学や団体の協力を得て様々な職業訓練を実施しています。今年度は41人の女性に裁縫や刺繍のトレーニングを行ったほか、13人に皮なめしの

技術、15人に大工や溶接工、電気技師などの職業訓練を行いました。これらの技術を身につけることは、彼らが就職し、自立する上で大きな助けとなっています。

## 3. 自助グループへの経済開発支援

経済状況が厳しい世帯の収入向上のため、WVは自助グループの強化に力を入れています。自助グループとは、個人では受けることが難しい行政機関／金融機関などからの融資や農業訓練の支援を、同じ境遇にある人々が協力して働きかけ、受けやすくするためのグループです。今年度は、54の自助グループが地元の行政機関や民間金融機関から必要な融資を受けられるようになりました。

さらに、自助グループのメンバー40人が、職業訓練や就職あっせんを通じて収入が増加しています。また、30人に小規模ビジネスを行うためのトレーニングを実施し、とくに経済状況の厳しい51世帯が支援を受けて、ヤギの飼育や仕立て業、乳牛の飼育・牛乳の販売など、収入向上のための取り組みを始めました。



自助グループによる活動を通して、乳牛を手に入れ、収入が向上した女性

### 担当：蘇畑光子スタッフのコメント

急速な経済発展を続けるインドですが、その発展の陰で、貧富の格差の拡大が指摘されています。教育を受け、将来に夢や希望を持ちながら成長していくことは、本来ならすべての子どもたちに与えられるべき権利ではないでしょうか。支援により、地域の人々の経済状況が少しでも改善され、1人でも多くの子どもが児童労働から解放され、自分たちのもつ可能性をのばし、さらに次世代の子どもたちにより良い環境を提供していけるようになることを願い活動しています。

皆さまのご支援に、心から感謝いたします。



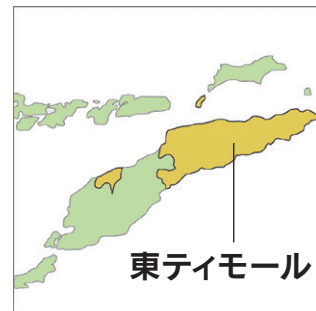


## 安全な水の不足に苦しむ 子どもたちや人々のために

### 支援地域の状況

東ティモール民主共和国（以下、東ティモール）は、東アジア太平洋諸国の中でも最も貧しい国の1つです。中でも山地が大きく占めるボボナロ県は、住民の大多数は小規模農業からの収穫で自給自足に近い貧しい生活を強いられています。また、道路や水道、病院といった社会的な設備が不十分で、住民の必要を満たすことができません。

とくに水の問題が深刻です。地域で暮らす住民で近辺に利用できる水源を持つ人々は、ごくわずかです。人々は水が手に入りにくいいため、手洗いの習慣など衛生的な習慣が根付かず、トイレの利用も一般的ではありません。利用できる水源があったとしても、飲料に適していない場合も多くあります。その結果、下痢や感染症が健康上の大きな問題となっています。特に抵抗力が大人に比べて弱く、いろいろな物を口に入れやすい幼児は下痢などの感染症の危険にさらされています。



### ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

WVJは、東ティモールのボボナロ県で2013年3月より、皆さまの募金と、日本政府の助成金（外務省、NGO連携無償資金協力）により、住民の衛生的な水の確保と、衛生環境を改善するための支援を行っています。合計12集落の約6,400人を支援対象として3年間の予定で行われ、2年目にあたる2014年は合計5集落の約2,100人が支援を受けることができました。

まずボボナロ県の農村で、住民と地方政府の担当部署である水道局が協議を行いました。協議の目的は、住民の意見を

集めるとともに、地域の水の問題解決のために小規模な水道設備を建設すること、衛生環境の改善のために住民が衛生的な習慣を身に付けること、などを合意することです。その合意を受けて、水・衛生環境を改善するための具体的な活動計画を作成しました。

この活動計画に沿って、住民の協力により水道建設が始まりました。建設はWVJが資材、そして技術的な指導を提供し、住民が労働力を無償で提供する形で行われます。小規模な水道であるため、水道管は太い物でも内径5センチほどです



水源の整備を行う住民たち。作業は住民たちが中心となって行われ、支援で与えられたのではなく、自分たちで作ったという意識を持つようになり、完了後の設備の維持・管理にも積極的になります。



水道建設の計画の話し合いに参加する住民たち



が、それでも一本は30キロ近くの重さになります。典型的な小規模水道は2〜4キロに達するため、300本から700本のパイプの設置が必要です。

熱帯に位置する東ティモールで、このような労働を行うことは大変ですが、住民が自ら作業することで、設備の仕組みを理解し、将来自らの手で簡単な補修ができるようになり、さらに水道設備が自らの財産であるという自覚を持つことができます。

水道設備が完成すると約2,100人の住民が水を身近で得ることができるようになります（住居より100m以内に蛇口があることが条件）。水汲みは主に女性や子どもの役割とされているため、近くに水道ができることで、子どもたちが勉強したり遊んだりする時間が増えるなど、子どもや女性の負担が軽減されます。さらに、手洗いやトイレの使用といった衛生的な習慣の普及が容易になり、衛生習慣の改善が見込ま

れます。

WVJは建設の支援だけでなく、住民に対する衛生啓発活動も行っています。とくにトイレの設置と使用、手洗いの重要性に重点を置いています。今後はとくに健康に関心の高いお母さんたち、また、手洗いやトイレ使用といった新しい習慣を受け入れやすい子どもたちに対して、集会やクイズといったイベントや放課後のクラブ活動というかたちで啓発を行っていきます。

トイレの設置に関しては、家庭用では、住民が自分たちで村内にある道具を使って設置可能なトイレ（汲み取り式）の作り方を技術的に支援するとともに、小学校においては、おとなたちの協力を得て、コンクリートを使ったより恒久的なトイレを建設する予定です。このような活動を通して事業地の集落における衛生環境の改善に努めています。



トイレを作ったサイモンさんと同じ村の子どもたち。WVJから衛生習慣とくにトイレの使用の重要性について学んだサイモンさんは村人たちとともにトイレを作りました。

### 担当:三浦 曜スタッフのコメント

2年目の活動を2014年3月より開始することができました。水道の建設作業を住民が行うため、住民の事業に対する理解、やる気、そして一体感が重要です。そのために事業開始時に時間をかけて住民との対話を行い、その後の建設作業開始後には事業に従事するスタッフが実際にその村に寝泊まりしながら建設作業の指導を行っています。このように時間を共有することで住民と事業スタッフの信頼関係も向上し、住民の建設に対する意欲も維持することができます。建設自体は7月から始まっていますが、一日も早く建設が進み、住民が水を得ることができる日がくるのを楽しみにしています。

